

令和 2 年度

横浜市立高等学校  
及び  
併設型中学校  
自己評価書

横浜市立みなと総合高等学校

## <学校情報>

1 課程・学科 全日制・総合学科

2 学校長 宮村 浩文 ( 令和3年4月1日現在 在職2年目)

3 学校教育目標

人間力を高める

「知識活用力」「自己実現力」「人間関係力」を培い、人間力を高める

4 教育方針

・めざす学校像

1. 確かな学力の向上を図り、自主・自学の精神を育て、学ぶ力を伸長する学校
2. 総合学科の特徴を生かしたキャリア教育を推進し、相互理解を深める学校
3. 多文化共生、異文化理解教育等の取組を実践し、相互理解を深める学校

・目指す生徒像

1. 真摯な学びを通し、蓄積した知識を活用することができる生徒
2. 特色あるキャリア教育を通し、将来の展望を拓くことができる生徒
3. 多種多様な教育活動を通し、温かな人間関係を築くことができる生徒

5 教職員数 (令和2年12月1日現在)

学校長 1 校長代理 0 副校長 2 事務長 1  
教諭 58 (男 35、女 23) 養護教諭 2  
実習助手 2 事務職員 3 技能職員 3  
A E T 2 非常勤講師 19 管理員 1

6 生徒在籍数 (令和2年12月1日現在)

年次(学年)	学級数	男子	女子	合計
1	6	48	187	235
2	6	53	176	229
3	6	49	178	227
合計	18	150	541	691

## 7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		61	47	77.0 %
生徒	1年	235	209	88.9 %
	2年	229	199	86.8 %
	3年	227	197	86.7 %
	合計	691	605	87.5 %
保護者		690	598	86.7 %

## 8 自己評価実施日

教職員	令和2年10月29日～	令和2年11月11日
生徒	令和2年11月2日～	令和2年11月20日
保護者	令和2年11月5日～	令和2年11月23日
地域	年 月 日～	年 月 日

## 9 集計・分析期間

令和2年10月29日～	令和3年1月30日
-------------	-----------

## 10 自己評価書の公表方法・時期

学校 WEB ページにて、令和3年5月中旬頃公開予定

## <自己評価>

### 1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

#### □魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 p.2-1、生徒 p.7-1、保護者 p.11-1,2)

取組	<p>(1) 幅広い選択科目 総合選択科目、自由選択科目などの幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視している。</p> <p>(2) キャリア教育 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」により、生徒のキャリア形成を支援する。</p> <p>(3) 国際交流活動 国際理解教育、人権教育、国際交流プログラムにより、語学力とともに国際性を高める。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒アンケート1「科目の選択」の肯定的評価は94.1%と高い評価である。</li><li>・高校生として必要な学力を身に付けさせるべく30年度から共通履修科目を増やし、英語、数学を2年次でも全員が学ぶことにより、基礎学力が向上し、進路選択の幅も広がっている。</li><li>・国際交流の取組は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、今年度の姉妹校交流は中止となった。</li></ul>
課題	<p>(1) 幅広い選択科目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和元年度に引き続き、「幅広い選択科目」を適切に選択するための知識や意欲がさらに必要になると考える。</li></ul> <p>(2) キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「キャリア教育」のさらなる充実を図り、進路実現に向け基盤となる学力の向上を図る。</li></ul> <p>(3) 国際交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・姉妹校交流の再開については、社会状況を鑑みながら、教育委員会事務局と協議を続けてゆく必要がある。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒が適切に科目を選択するために、教職員が新教育課程や本校が総合学科高校として生徒・保護者から求められているニーズを共通理解するための研修をする機会を増やし、今後本校で育てていきたい生徒の資質・能力の明確化を図る。</li></ul>

## 2 教育活動の状況

### □教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 P.2-3、生徒 P.7-1、保護者 P.11-2)

取組	(1) 「幅広い選択科目」 生徒の希望する進路や興味・関心に対応した多様な選択科目を設置している。 (2) 「主体的な科目選択」 計画的な科目選択ガイダンスを通して、進路や興味・関心に応じて、一人ひとりの時間割づくりを行っている。
成果	・生徒アンケートの肯定的評価も 94.1%で昨年度より 3.7%上がっており、総合学科としての多様な選択科目の設定については評価が高い。 ・保護者アンケート「カリキュラムと進路実現」の肯定的評価が 80.8%あり、昨年度よりやや高くなっている。
課題	・保護者アンケート「カリキュラムと進路実現」の否定的評価は 11.6%、わからないが 7.8%であった。多様な選択科目は用意されているが、進路実現との結びつけ方が難しい。保護者に対してより一層の理解を深める必要があるとともに、安易な科目選択とならないよう「主体的な科目選択」の実現が課題である。
改善策	向上した現状に満足せず、引き続き選択科目の充実に取り組んでいきたい。「カリキュラムと進路実現」に関しては、キャリアガイダンス部と連携して、生徒のよりよい進路実現に向けて、努力をしていく必要がある。

### □進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 P.2-10、生徒 P.4-6、保護者 P.11-6)

取組	・各学年のガイダンスを年次ごとに工夫をして、生徒の進路選択の動機づけとする。 ・令和2年度の入試改革への対応。 ・公務員試験や民間就職試験に向けて、複数回のガイダンスや外部講師による指導。 ・一般受験者向けに、勉強の仕方や計画の立て方など今からできること、やらなければならないことを確認する場を設け、しっかりと受験に臨める態勢を構築すること。 ・年次ごとに保護者会を開き、進路実現に向けての協力体制の構築と情報提供。
----	--

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート 6「進路情報の提供と指導」について、肯定的回答は77.8%とかなりよい回答になっている。進路部開催としては年一回の保護者会で、進路情報を提供しているが、今年はコロナの影響で会場を体育館にして、時間を短時間にして、保護者向けのガイダンスも今年は中止せざるを得なかった。</li> <li>・教員用アンケート 10「生徒の希望する進路の実現に向けての取組」では、肯定的な回答が約77パーセントとなっているが、否定的もしくは不明という回答も22パーセントあるのでこの部分をもっと少なくしていきたい。肯定的な意見は教員向けガイダンスや年次会への情報提供を行った結果であるが、今年はzoomであったり、動画配信であったりと新たな方策を模索した。</li> <li>・生徒アンケート 6「進路情報の理解」について。1年次に対しては情報の内容が十分に理解できてない場合も考えられる。「産業社会と人間」の中のキャリア教育がまだ足りないと感じる。</li> </ul>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度はコロナ禍にあって、いままでに経験したことのない方策を求められた1年であった。対面で伝えることができずに、zoomであったり動画配信であったり、まだまだ使っていかなければいけないツールは多くある。今後、何が起こるかわからないのでこれらの扱いを習熟していかなければならない。</li> <li>・以前と比べてみなと総合はそのほとんどの生徒が進学という進路を選ぶ。そのために必要なことは、どの分野を選んでも困らない基礎学力を身に着けること。そして、そのためには高校生活での授業をしっかり受けること、安易な道に頼らずしっかり勉強してチャレンジして自らの道を切り開くという気概を持つことが必要である。</li> <li>・大学入試改革に伴い、その準備、対策を早め早めに行っていくことが必要である。</li> </ul>
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、17期から共通履修の科目数を増やし、基礎学力を重点的に伸ばすべく教育課程を変えてきた。いまはすべてがその共通履修の生徒たちである。以前に比べて、生徒のやる気が少しずつ変わってきたのを感じる。模擬試験等をもう少し増やして、受け止める行事が必要である。また、経験の少ない担任が進路に応じた適切な指導や助言ができるように、多くの進路に対する研修が必要である、そのためには教職員対象の研修会も増やしてゆく予定である。</li> </ul>

### 3 学校経営の状況

#### □組織運営・教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 p. 2-15, 18)

取組	<p>(組織運営)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和元年度に、進路指導とキャリア教育の効率的な推進を目指して新設したキャリアガイダンス部の業務を、本校の課題に合わせて運用の的確化を図る。</li></ul> <p>(教職員研修)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>不祥事防止研修をより実践的な内容に改め、人権教育の更なる充実を図るとともに、不祥事を絶対に起こさない、起こさせないという学校風土を構築する。</li><li>スクールソーシャルワーカーの定期訪問を実現させ、生徒が抱える学校だけでは解決できない様々な課題に対し、専門的な立場からアドバイスを受けることができるような体制を作る。</li></ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>キャリアガイダンス部が中心となって企画した様々な取り組みを、年次をはじめとした全職員で実施することにより、生徒のキャリア形成に向けた意識向上に繋げることができた。</li><li>コロナ禍の状況の中で、全職員が集まって研修の時間を持つことは難しかったが、令和2年度より導入された校務システムを効果的に運用することにより、教職員の意識改革を図ることができた。</li><li>スクールソーシャルワーカーの的確な指示・対応により、従来に比べて、より迅速に外部機関等との連絡・調整を行うことで、生徒の課題解決に向けた取組を加速することができた。</li></ul>
課題	<p>(組織運営)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>キャリアガイダンス部の調査書発行業務について、キャリアガイダンス部のシステムと校内の成績処理システムの連携に不具合が見られる場面が散見され、本校の教務システムの脆弱性が露見した。</li></ul> <p>(教職員研修)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>不祥事防止に向けた教職員の意識改革については一定の成果が見られたものの、教員の授業力向上や生徒指導・生徒理解等の研修体制には、その質・量ともに課題が残る。</li><li>スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等の、教職員とは違う角度で生徒に接している専門家からのアドバイスを、該当の教職員だけではなく、全職員で共有できるような体制を整える必要がある。</li></ul>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領改訂に伴う学習評価の表記方法変更に対応した校務システムの導入を図るとともに、キャリアガイダンス部と教務部で取り扱っている業務の、更なる有機的な統合を目指す。</li> <li>・教職員がどのような研修を望んでいるか等の意見を取り入れながら、研修会の内容を考え、より一層効果的な研修のあり方を模索していく必要がある。</li> </ul>
-----	--

## □危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員 p. 2-25, 26、生徒 p. 7-12)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31 年改訂「学校防災計画」の内容に沿って防災訓練を 2 回、職員対象の防災研修を 1 回行った。</li> <li>・警報発表時や災害時の対応について、保護者会や学校連絡・情報共有サービス (cocoo) を通して保護者への周知を図った。</li> <li>・緊急時の情報発信を迅速化するために cocoo や Web ページの活用を継続している。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員による学校評価では、25 安全対策について 91.3%、26 防災対策について 91.4%の肯定的回答になり、多くの教職員がおおむね実施できていると認識している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による学校評価 12「災害時の避難経路」について、肯定的な回答が 54%となっており、なかなか改善できていない。避難経路の確認が避難訓練時のみになりがちなこと理由の一つと考える。どう改善していくかが大きな課題である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練の時だけでなく、生徒が日常的且つ主体的に防災意識を高めることができるような取組の検討が必要である。ホームルームや生徒会活動などの特別活動の時間を活用し、広い視野で工夫・改善について検討していきたい。防災委員会を中心に、学校防災が円滑に運営できるようにしていきたい。</li> </ul>

#### 4 いじめへの対応に関する項目

##### □いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 P. 2-28 生徒 P. 7-2, 4, 5)

取 組	<ul style="list-style-type: none"><li>・「生徒情報交換会」の充実（生徒情報交換会：教員間での生徒の情報共有と指導体制を確認する会議）</li><li>・ケース会議の実施</li><li>・学校生活アンケート（記名式）の実施とその対応</li><li>・個人面談を含む相談活動</li><li>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携した教育相談体制の強化</li></ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒情報交換会とケース会議により生徒の特性を確認し、個別の指導体制の充実を図ることができた。</li><li>・学校生活アンケートをもとに個人面談を行い、生徒の悩みや不安に対し早期に対応した。</li><li>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携により、生徒の「困り感」に対し、専門的な視点からもサポートすることができた。</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒アンケート3, 4から、「教員の相談体制」「いじめを許さない環境づくり」について2割の生徒が「あまりそう思わない」としている。教育相談の充実といじめを許さない環境づくりに対し、より一層取り組んでいくことが必要である。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者への「いじめ防止基本方針」の説明と、全校生徒への「いじめは絶対に許さない」ことへの指導を徹底する。</li><li>・4月当初に教育相談窓口の周知を徹底する。</li><li>・日々の相談体制と個人面談期間を活用し、相談しやすい環境を整える。</li><li>・日常的に教師と生徒の良好な関係を築いていく。</li></ul>